
万引き少年

伊田 二郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

万引き少年

【Nコード】

N5482F

【作者名】

伊田 二郎

【あらすじ】

実は万引きをしてしまった。それが始まりだった……

酒井実は必死に走っていた。捕まれば殺される。そう思い限界に近い自分に鞭をいれ走った。

実は後ろを振り向く。コンビニ店員はまだ追ってきている。何故こんなことになったのか。それは15分ほど前の出来事であった。

毎日の日課であるランニングをしていた実は途中でコンビニに立ち寄った。飲み物でも買おうと思い店内を歩いている途中にお菓子コーナーが目に入った。見ると急に欲しくなり、飴とガムを1つずつ手に取った。そこまでは良かったのだ。しかし何を思ったか実は飴をポケットの中にしまったのだ。いわゆる万引きである。しかもガムはちゃんと金を払ったのだった。こうすればバレないと思ったのだろう。店を出ると実は走ってコンビニから去ろうとした。が、しかしその直後にコンビニ店員も店を出てきたのだ。こうしてこの追いかっことは始まった。

毎日ランニングをしてうたので実は体力に自信があった。かんたんに逃げ切れる、そう思った。

しかし現実はその甘くはなかった。何度も振り返るが視界には必ずコンビニ店員がいる。二人の距離は縮まることもひらくこともなかった。

そうして今である。二人はいまだに30メートルほどの距離を保ちながら走り続ける。

実はもう一度後ろを振り返った。コンビニ店員はまだ走り続けている。手に光るものを持ちながら。あれはきつと包丁だ。殺される。

犯罪を犯した人でも殺してはいけない。当たり前のことだ。しかしコンビニ店員は実を殺そうとしている。

もう限界だ……

実は足を止めた。

二人の距離は徐々に縮まりあつという間にコンビニ店員は実に追いついた。

コンビニ店員は首から田中とかかれた名札をぶら下げている。

実は息を整えコンビニ店員田中と向き合い目を瞑った。

田中が何か言っている。「……い……り」もう自分には関係ないことだ。実は目を開けなかった。

「ねえ、君」実は肩をたたかれた。そんなに強い力ではなかったが実はよろけた。

そして田中の顔を見た。くつきりとした二重の目だった。しかしその目は実を見ている様ではなかった。それより先を見ている。そう感じた。

「はい、おつり」そういうと田中は右手を前に差し出した。

おつり？　そういえばコンビニではあせていて受け取らなかったな。でもそれだけのためにここまで？

少しためらいながらも実も右手を前に差し出した。手のひらの上に11円が置かれる。

そうすると田中はにっこりと笑ってコンビニの方へ体を向けた。

実は田中と逆のほうを向いた。

「なーんてね」さっきの明るい声とは全然違う田中の声が聞こえた。実が振り向こうとした瞬間、田中の左手が動いた。先程光っているものが見えたのも左手だった。

実はその場に倒れた。

物静かな住宅街に不気味な笑い声が響いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5482f/>

万引き少年

2010年10月15日22時16分発行